

C03a 東アジア・太平洋地域における宇宙にまつわる神話伝説の出版と普及

海部宣男、吉田二美、ほかアジアの星ワーキンググループ

世界の民族には太陽や月、星、宇宙にまつわる神話や伝説が豊かに伝わり、祖先たちの宇宙観を今に伝え、文化の源泉の一つともなっている。しかしいま学校やプラネタリウムで教えられる星の神話伝説は、ほとんどギリシャ・ローマ神話である。そこで私たちは、国際天文学連合が組織した世界天文年2009に際し、アジア地域の天体や宇宙にまつわる神話・伝説を集め、編集してそれぞれの国で出版する「アジアの星」国際共同計画を開始した。2008年のEAMA（東アジア天文学会議）で提案、2009年5月に三鷹で「アジアの星」ワークショップを開催して、神話・伝説を英語にして持ち寄った。参加は北から順に、モンゴル、中国、韓国、日本、台湾、ベトナム、インド、ネパール、バングラデシュ、タイ、マレーシア、インドネシア、太平洋諸島の13カ国・地域である。

集った100近くの話から、国・地域、天体ごとにバラエティを持たせ、星にまつわる祭も含め最終的に68話を採用した。大人から子供まで楽しめる本を目指し、英語版をもとに各国・地域語に再翻訳して出版する。それぞれの話に現地画家による挿絵を入れることで、神話伝説を育んだ地域の民族性・文化性を表現した。巻末には、各地域の神話・伝説の背景となった宇宙観・文化とその流れについての教師、解説者、親などのより深い理解のために、インド、中国、太平洋諸島のそれぞれの専門家による解説を加えた。

まず日本語版が編集を終えて、近く出版される。英語版も、ハワイ大学出版局から2015年夏までに出版の予定で最後の編集に入った。英語版に基づいて、非英語圏での翻訳と出版が進められる。本書は全参加者のボランティアによる事業で、出版の成果は教育・普及活動に自由に用いていただくことにしている。なお本計画には、放送大学教育振興会及び天文学振興財団より援助を頂いた。